

国内研修活動報告書

島根県 隠岐の島 島前

I. 各企画に関して

1、ヒトツナギ交流会

隠岐島前高校のヒトツナギ部の皆さんと、今年のヒトツナギの活動について振り返りを行った。大学生の役割として、高校生だけでは踏み込めないところまで話し合えるように手助けをすることと、客観的な意見を交えながら今後の課題を共に考えることであったと考える。また、島前には大学が無いため、その話し合いの中で大学生とはどういうものか、高校生の皆さんに感じてもらえればよかったと考える。

今回の交流会で良かった点は、大学生と高校生が話し合いの中で仲良くなれた点であると考え。仲良くなれたことで高校生の本音を聞き出すことが出来、上手く話し合いを進めることが出来た。また、大学生というものに少なからず興味を持ってもらうことが出来たと考える。

反省点として、大学生側がヒトツナギ部のことやヒトツナギの活動自体に関して知識が少なすぎたことで、高校生が説明をする時間が多くなり、結果として深いところまで振り返りをする時間が無くなってしまった点がある。また、雑談が多すぎたことも挙げられる。高校生とは初対面であったため、一度仲良くなり話しやすい関係になってからの方がうまく話し合いを行うことが出来るのではないかと考えたからである。しかしこの考えが真剣にヒトツナギの活動について振り返りをするにあたってマイナスの効果をもたらしてしまったかもしれない。

来年への改善点として、大学生がより多くのヒトツナギに関する知識を持ち、出来ればヒトツナギの活動に参加してみたいと考える。

2、中学校出前授業

西ノ島中学校の3年生の皆さんと、キャリア教育の取り組みの一環として交流会を行った。大学生の役割として、中学生の自己肯定感を育み、何事にも挑戦するチャレンジ精神あふれる人間になることと、授業を通して自分を知り、自身の可能性を模索することを目的とした。大学生と中学生がペアを組み、ライフストーリーチャートを基にそれぞれの人生について振り返り、その後グループになってお互いに発表し合い、意見を交換した。その話し合いの中で気付いたことを基に自己分析、他己分析をし合い、お互いの可能性について話し合った。

良かった点として、中学生と仲良くなれた点が挙げられる。お互い初対面ということもあり、最初はあまり話してくれなかった中学生も、関わっていくうちにだんだん積極的に話してくれるようになり、後半では中学生の本音が聞けたり、逆に大学生に関する質問を投げかけてきたりした。最終的には中学生の大きな可能性を感じる事が出来た。また、中学生の交流後の感想を見ると、それぞれで感じる事があったのだと分かり、意味のある時間だったのではないかと考える。

反省点として、個人的には時間配分がうまくいかなかった点が挙げられる。中学生

自身がライフストーリーチャートを作成する時間が予定より多くかかってしまい、そのあとの話し合いの時間が少し短くなってしまった。また、中学生が作成している間はあまり会話をすることが出来ず、コミュニケーションをとる時間も短くなってしまった。私がもう少しアドバイスしたり手伝ったりしていればよかったと反省している。ただ、中学生が真剣に自分の人生を振り返ってくれていて嬉しくも感じた。

来年に向けての改善点として、アイスブレイクの改善、時間配分の計算、目的の明確化、等が挙げられる。

3、大学生交流会

インターンで隠岐の島に来ていた大学生と、学習センターで交流会をする予定であったが、台風の影響で内航船が出ず、急遽スカイプを用いた交流になってしまった。今回の議論では、隠岐の島についての印象、地域に学生が入ることの意義について、自分が地域に入ってやりたいことについてなどを考えることが出来た。

良かった点として、他の大学生がどのように考えているのかを知ることが出来、新しい意見として得ることが出来た。自分達が地域に入ること、何が出来るのか、何をすべきなのか改めて考えるきっかけになった。

反省点として、やはり直接会って話したかった点がある。結果としてどういう意見が出たかは聞くことが出来たが、そこまでのプロセスを聞くことが出来なかった。どのような話し合いをしてこのような意見が出たのかとても気になる。また、交流の目的がはっきりしていなかったように思う。議論を始める前にお互い確認しておくべきであると感じた。

II. 企画以外での活動

1、きんにやもにや祭

きんにやもにや祭は隠岐の島に着いたその日の行事であり、夜行バスや船と疲れがたまっていたこともあり、正直、あまり踊ることに乗り気ではなかった。さらに踊る直前に皆で海に軽く入ったこともあり、洋服は乾かず疲労はピークで大変なことになっていた。しかしいざ踊り出してみると子供から大人まで一斉に踊るお祭りの一体感に感動し、その一員として踊っていることがとても楽しいと感じることが出来た。1時間弱踊り続け、終わった時の達成感は素晴らしいものがあった。もう足は疲れきっていて上がらないのに、島根県賞に選ばれた時は、全員全力で舞台に向かって走っていたことが、とても記憶にある。そのあとの花火は言葉にならないものがあった。東京では決して味わうことのできない感動であった。とても近くで、少人数で、適温で、きれいな空で、クオリティの高いその花火にくぎ付けになった。このお祭りを通して、隠岐の島の人たちの繋がりや一体感を感じる事が出来た。

2、星

1番と言っていいほど印象に強く残っているのが星である。夜中に山の上に皆で見に行き、最初は曇っていたのだが、私達が到着してすぐ雲が流れていき、満天の星空を見ることが出来た。5分に1回のペースで流れ星を見ることが出来、全員何分か無言で見続けていたことを覚えている。なかなかみんな帰りたがらず、結局2時間くらいその場所にいた。

3、島の雰囲気

島の自然と島の人たちが大すきになった。きれいな守られた自然とすれ違ふと必ず挨拶をしてくれる繋がり強い人々。東京にはないものであると改めて感じ、少し悲しくも感じた。

4、若者宿

昔は保育園として使われていた場所に泊まらせて頂いていたのだが、幽霊が出たり、シャワーのお湯が出なかったり、電源が落ちてしまったり、トイレに大きめの虫が出たりとなかなか慣れることが大変な場所であった。しかしそれら一つ一つが私達の仲をよくしてくれていたと感じる。最終日には、帰りたくないと感じるほど大すきな場所になっていた。

Ⅲ. 全体の感想

今回この国内研修に参加して、改めて地域について、自分自身について考えることが出来た。行く前と後では自分でも驚くほど心境の変化があった。正直、行く前は旅行程度の意識しかなかった。しかし実際に参加して、一緒に参加した仲間と議論していくうちに、本当に自分がやりたいことは何なのか、なぜこの企画に参加しようと思ったのか少しわかったような気がする。今回の経験を活かし、今後のことを真剣に考えていきたいと考える。また、近藤さんを始め、今回一緒に参加した仲間には本当に感謝の気持ちでいっぱいである。メリハリがきっちりしており、遊ぶ時は全力で遊び、話し合う時は真剣に、納得いくまで議論することが出来た。議論に集中しすぎて気が付いたら夜中の3時ということもあった。私にとって同じような思いや志を持った人と過ごすことが出来たのは大きな財産であったと考える。